令和４年度　和歌山大学教職大学院運営協議会（第２回）　概要

日　　時　令和５年３月１４日（火）１４：００～１５：５０

場　　所　和歌山大学東３号館 南５０２（和歌山市栄谷９３０）

出　　席　宇津満 田辺市立東部小学校長、岸田正幸 大阪体育大学教育学部教授、川嶌秀則 和歌山県教育委員会学校教育局長、岡本友尊 和歌山市教育委員会学校教育部長（前北学校教育課長による代理出席）、古田清和 和歌山市立伏虎義務教育学校長（橋爪教頭による代理出席）、本山貢 教育学研究科長／教授、豊田充崇 教職開発専攻長／教授（授業実践力向上コース長）、添田久美子 副学長／教授（学校改善マネジメントコース長・スペシャリストコース長）、武田鉄郎 教授（特別支援教育コース長）

欠　　席　なし

概　　要

（１）研究科長挨拶

（２）出席者紹介

（３）報　　告

①本年度の入試状況について

豊田専攻長より、資料１のとおり説明があった。

状況：令和 5 年度合格者が入学者定員を充足した。理由として新設大学からの外部進学者や教育職員免許状を取得させるためのコースの希望者が多かったことが挙げられる。

②教員採用試験の結果について

豊田専攻長より、資料２のとおり説明があった。

③現職派遣教員修了生の教育現場での状況等について

豊田専攻長より、資料３のとおり説明があった。

状況：学校改善マネジメントコースの複数の修了生が学校の管理職や県教委の指導主事となっており、それ以外においても学校の中核となって評価が高い。修了生に確認したところ、教職大学院の学びによって危機管理能力が向上し、現場で役立ったとのことであった。修了生の頑張りを見て、新たな受験希望者もみられた。

④「修了研究」の取り組みについて

豊田専攻長より、冊子（2023 年 3 月 3-4 日に開催された「教師力高度化フォーラム」発表報告資料集）のとおり説明があった。

⑤特色ある取り組みについて

豊田専攻長より、資料４（ブレンディッドラーニングによる教員研修証明プログラム）及び

資料５（小規模校実習）のとおり説明があった。
状況：ブレンディッドラーニングについては今後段階的に有料化（年間登録料を徴収すること）、単位化も検討。受講人数が少ない講座については、対象者のニーズ調査と、今後の学校教員の新研修制度とともに検討。小規模校実習は次年度の参加人数が増加する見込み。

⑥授業評価アンケートの結果について
豊田専攻長より現在の概況について説明があった。

⑦修了時アンケートの結果について
豊田専攻長より、資料６のとおり説明があった。

⑧2023 年度の運営体制等について
豊田専攻長より、資料７のとおり説明があった。

⑨その他（参考資料の説明）
豊田専攻長より、特色のある取り組みとして、田辺市・海南市と連携して校内研修の支援事業を実施していることの説明があった。

（４）質疑応答／協議
（入学者選抜について）
・定員充足や学部と教職大学院の接続の観点から、教育学部からの内部進学者をさらに増やしていくことを視野に入れる。（岸田氏）
→近年では家計状況から進学より就職を希望する傾向がみられることも説明。

（ブレンディッドラーニングについて）
・コンテンツについてはニーズを把握したうえで講座の性格づけを行い、大きなテーマのグループとしてプログラムを提供していくことも必要と考える。（岸田氏）
・新研修制度との接続については県としても今後も検討を進めたい。（川嶌氏）
・費用徴収について、受講者にとってインセンティブがある場合は理解が進むものの、そうでない場合は難しい傾向にある。（岸田氏）
・スキルアップはしたいという人は多い（費用については意外といとわない）が、資格というとなんともいえないところがある。（前北氏）
・遠距離であることや育児などの理由により来ることができない人もいるので、研修方法にも工夫が必要。（岸田氏 他）

（主な意見）
・大学のみならず学会などでも資格取得のための講座を出すと取得しようとする人が多いが、どのように発展させていくのかは課題。（武田）

・大学院の学びが役立つよう、大学院修了後も子どもたちや教職員のため研修時間を確保していきたい。ただ、児童数減少により学級数が減ってきているが育休代替の講師が増えていることも気になっている。（宇津氏）
・今後も和歌山大学には期待している。（宇津氏 他複数）
・教職大学院とのつながりとともに今後も学内でブレンディドラーニングも進めていきたい。（橋爪氏）
・短期的に見ると現職教員を派遣で出すことは痛いものがあるかもしれないが、長期的には和歌山市全体が成長している。（前北氏）
・現職教員の実践研究の場としてのお礼、研修履歴については今後も制度設計を進め、協力していきたい。（川嶌氏）

（５）閉会挨拶（本山研究科長）／次回日程について
次回は令和５年夏に予定。